

令和2年度指定野菜価格安定対策事業における 価格差補給交付金等の交付状況について

野菜業務部 交付業務課

【ポイント】

- 1 令和2年度指定野菜価格安定対策事業の価格差補給交付金等の交付額は、187億2885万円（前年比97.0%、過去10年平均比151.1%）で、近年では、令和元年度（193億円）に次ぐ高い水準となった。
- 2 品目別には、①レタス58億4078万円（前年比152.4%）、②トマト46億1076万円（同146.2%）、③キャベツ24億2254万円（同96.7%）、④たまねぎ23億2218万円（同65.8%）、⑤きゅうり10億7838万円（同220.6%）の順で、上位5品目で全体の約9割を占める。
- 3 道府県別には、①熊本県33億9037万円（前年比165.0%）、②愛知県17億2451万円（同141.1%）、③長野県16億2984万円（同95.3%）、④北海道15億1701万円（同42.9%）、⑤茨城県11億6596万円（同179.9%）の順で、上位5道県で全体の約半分を占める。

1 はじめに

野菜は国民の食生活に欠くことのできない食料品ですが、天候により豊作、不作の差が大きい上に日持ちしないものが多いため、価格が短期間に大きく変動するという特性を有しています。このため、当機構では、キャベツ、トマトなど消費量が多く重要な野菜14品目を対象として指定野菜価格安定対策事業を実施しています。この事業は、あらかじめ国、都道府県の区域を単位として設立された野菜価格安定法人、生産者が資金を積み立てておき、これら野菜の市場価格が低落した場合に生産者が次年度以降も安定した生産を継続できるよう、低落の幅に応じた価格差補給交付金等を生産者に交付するものです。

この度、令和2年度事業の対象野菜の出荷期間が終了しましたので、当該年度における価格差補給交付金等の交付状況について報告します。

2 気象概況と東京都中央卸売市場における価格の状況

令和2年度の野菜の価格を概観すると、4月から5月は、低温による生育不良や新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大防止の外出自粛の影響に伴う家庭消費の需要（巣ごもり需要）の増加のため、平年より価格が上回って推移した一方、業務用需要の減少により、一部の品目の価格が平年を大きく下回りました。また、7月から8月にかけては、長雨と日照不足の影響により、葉茎菜類、果菜類など多くの野菜が前年を上回って推移しました。

その後は、好天に恵まれ台風の襲来による被害もなく順調な生育で、10月からの秋冬野菜は平年を下回って推移し、一時的に寒波の影響があったものの、3月まで好天に恵まれ、価格は平年を下回って推移しました。

具体的には、春野菜は、低温による生育不良や昨年度から引き続くCOVID-19の感染

拡大防止の外出自粛の影響に伴う巣ごもり需要の増加のため、キャベツやはくさいなどの価格は平年を上回って推移しましたが、業務用需要が減少したことにより、たまねぎなどの価格が平年を大きく下回りました。

夏秋野菜は、梅雨前線の活発化による長雨と日照不足の影響により入荷量が少なめとなり、キャベツやはくさいなどの葉茎菜類やきゅうりなどの果菜類など多くの野菜が前年を上回って推移しました。一方、業務用需要の減少により、レタスは平年を下回って推移しました。

秋冬野菜は、晴天と適度な降雨に恵まれたことから安定した入荷量となったことに加え、業務用需要の減少などから、はくさい、キャベツ、レタスなどの葉茎菜類の価格が平年を下回り、特にレタスが大きく値を下げて推移しました。

1月から3月にかけては、一時的に寒波の影響が多少あったものの、3月までは暖冬で日照量にも恵まれ、潤沢な入荷量となり、葉茎菜類、

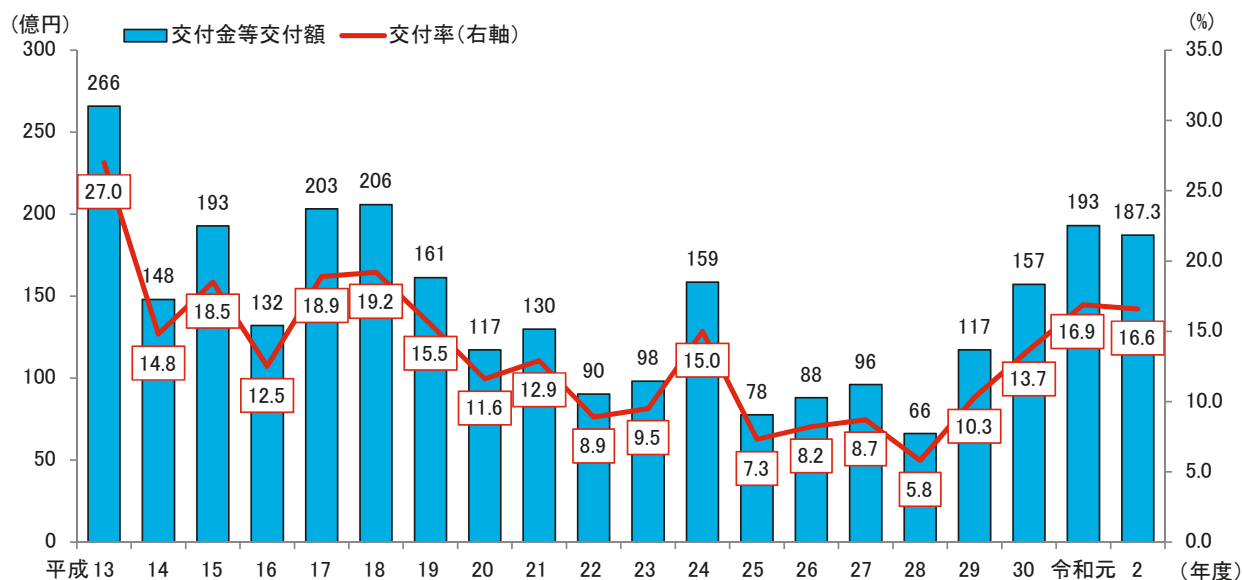
果菜類などの価格が平年を下回り、業務用需要の減少もあり特にトマトが平年を下回って推移しました。

一方、ばれいしょは、主産地の生育期の天候不順などの影響により出荷量が減少したことに加え、巣ごもり需要もあり、価格がほぼ年間を通して平年を上回って推移しました。

3 価格差補給交付金等の交付状況

このように、令和2年度の指定野菜の価格は、4月から8月を除き、ほぼ年間を通して平年を下回ったため、令和2年度事業の価格差補給交付金等の交付額は、年間を通じて価格が平年を下回った前年度に引き続き高い水準となり、187億2885万円（前年比97.0%、平成23～令和2年10年平均比151.1%）、交付率（資金造成額に占める交付額の割合）は16.6%となっています（図1）。

図1 指定野菜価格差補給交付金等交付額と交付率の推移



品目別の交付状況は、レタスが58億4078万円（前年比152.4%、交付割合31.2%）で最も多く、次いでトマトが46億1076万円（同146.2%、24.6%）、キャベツが24億2254万円（同96.7%、12.9%）、たまねぎが23億2218万円（同65.8%、12.4%）、きゅうりが10億7838万円（同220.6%、5.8%）の順になっています。これら上位5品目で交付額の約9割を占めます（図2、表1）。

レタスの交付額が多かった要因としては、9月以降好天となり、野菜全般が安定した生育になる中で、COVID-19の感染拡大防止の影響により業務用需要が減少し価格を押し下げたこと、また、茨城県、静岡県などの冬レタスの主産地でも、温暖な気候が続き、潤沢な出荷となったことに加え、業務用需要の減少から、

冬レタスの出荷期間を通して価格が低水準で推移したことから、レタス全体の交付率は42.4%となりました。次いで交付額が多かったトマトも、秋から冬にかけての熊本県、愛知県、栃木県などの産地において好天に恵まれ、順調な生育となり、特に主産地である熊本県産が潤沢な入荷量だったことに加え、業務用需要が減少し価格が低水準で推移したことから、トマト全体の交付率は21.8%となりました。

品目別・出荷時期別（種別別）の交付状況を見ると、冬春トマトの43億9592万円（前年比185.2%、交付率31.4%）を筆頭に、次いで冬レタスの37億2001万円（同170.5%、52.2%）、冬キャベツの23億5336万円（同117.8%、43.6%）、たまねぎの23億2218万円（同65.8%、20.7%）の順となっています（表1）。

図2 令和2年度価格差補給交付金等交付額と交付割合（品目別）

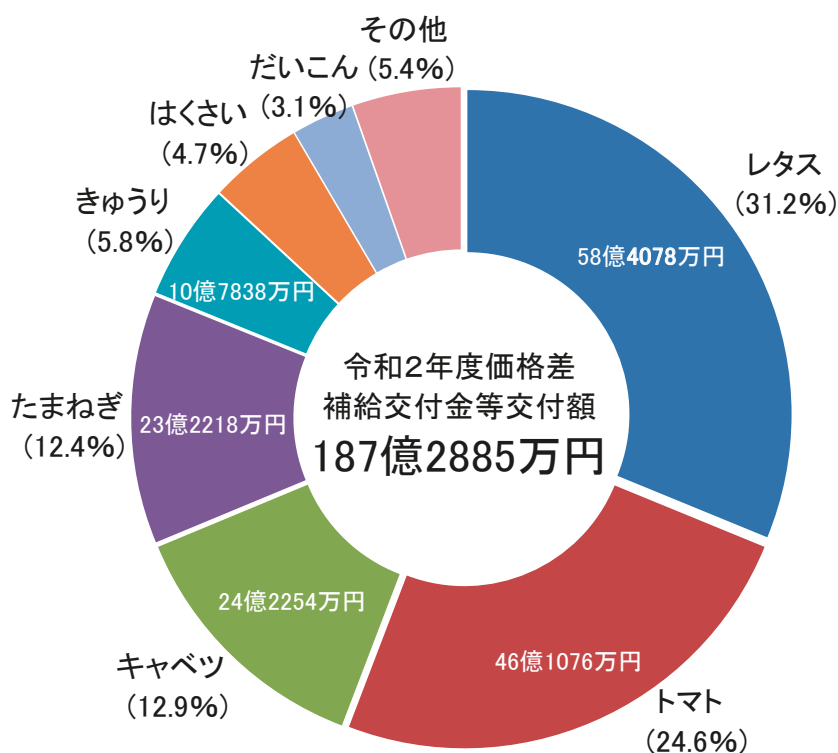


表1 令和2年度価格差補給交付金等交付額と交付率（種別別）

区分 対象野菜		2年度			元年度		
		資金造成額 (A)	交付金等交付額 (B)	交付率 (B)/(A)	資金造成額 (C)	交付金等交付額 (D)	交付率 (D)/(C)
キャベツ	春	千円 2,706,500	千円 16	% 0.0	千円 2,786,299	千円 159,251	% 5.7
	夏秋	5,552,726	69,162	1.2	5,572,109	347,967	6.2
	冬	5,399,559	2,353,362	43.6	5,634,801	1,997,053	35.4
	計	13,658,785	2,422,540	17.7	13,993,209	2,504,271	17.9
きゅうり	夏秋	4,355,881	26,566	0.6	4,439,273	159,094	3.6
	冬春	8,299,019	1,051,814	12.7	8,472,304	329,647	3.9
	計	12,654,900	1,078,380	8.5	12,911,577	488,741	3.8
さといも	秋冬	249,590	760	0.3	264,453	3,072	1.2
だいこん	春	1,104,539	65,373	5.9	1,039,549	172,002	16.5
	夏	1,153,751	0	0.0	1,217,634	187,780	15.4
	秋冬	3,762,594	509,764	13.5	3,983,949	619,669	15.6
	計	6,020,884	575,137	9.6	6,241,132	979,451	15.7
たまねぎ		11,196,074	2,322,183	20.7	11,384,692	3,531,478	31.0
トマト	夏秋	7,166,097	214,846	3.0	7,483,901	779,844	10.4
	冬春	13,997,388	4,395,915	31.4	12,850,790	2,373,280	18.5
	計	21,163,485	4,610,761	21.8	20,334,691	3,153,124	15.5
なす	夏秋	1,824,561	5,927	0.3	1,929,469	41,224	2.1
	冬春	4,332,422	39,884	0.9	4,313,368	15,956	0.4
	計	6,156,983	45,811	0.7	6,242,837	57,180	0.9
にんじん	春夏	3,280,321	307,010	9.4	3,332,595	1,492,120	44.8
	秋	1,890,855	121,273	6.4	1,865,027	531,730	28.5
	冬	2,567,326	90,479	3.5	2,706,428	232,528	8.6
	計	7,738,502	518,762	6.7	7,904,050	2,256,378	28.5
ねぎ	春	839,868	8,305	1.0	842,702	40,020	4.7
	夏	1,230,969	37,274	3.0	1,239,521	131,431	10.6
	秋冬	2,904,133	105,563	3.6	3,043,487	296,939	9.8
	計	4,974,970	151,142	3.0	5,125,710	468,390	9.1
はくさい	春	435,982	20,551	4.7	438,059	98,203	22.4
	夏	1,596,030	104,901	6.6	1,597,828	446,019	27.9
	秋冬	1,544,482	746,081	48.3	1,754,682	396,368	22.6
	計	3,576,494	871,533	24.4	3,790,569	940,590	24.8
ばれいしょ		4,025,267	0	0.0	4,101,436	815,208	19.9
ピーマン	夏秋	1,385,275	961	0.1	1,422,085	3,875	0.3
	冬春	4,187,248	147,139	3.5	4,170,259	241,031	5.8
	計	5,572,523	148,100	2.7	5,592,344	244,906	4.4
ほうれんそう		2,183,695	142,953	6.5	2,309,139	25,920	1.1
レタス	春	1,884,276	217,121	11.5	1,930,675	127,216	6.6
	夏秋	4,762,787	1,903,653	40.0	4,782,880	1,523,733	31.9
	冬	7,123,912	3,720,010	52.2	7,411,098	2,182,251	29.4
	計	13,770,975	5,840,784	42.4	14,124,653	3,833,200	27.1
合 計		112,943,127	18,728,846	16.6	114,320,492	19,301,909	16.9

次に、道府県別の交付状況は、①冬春トマトなどへの交付が多かった熊本県の33億9037万円（前年比165.0%、交付率27.1%）を筆頭に、②冬キャベツなどへの交付が多かった愛知県の17億2451万円（同141.1%、30.2%）、③夏秋レタスなどへの交付が多かった長野県の16億2984万円（同95.3%、23.2%）、④たまねぎなどへの交付が多かった北海道の15億1701万円（同42.9%、12.8%）、⑤冬レタスなどへの交付が多かった茨城県の11億6596万円（同179.9%、

27.5%）の順となっています。これら上位5道県で交付額の約半分を占めています（図3、表2）。

以上、令和2年度指定野菜価格安定事業における価格差補給交付金等の交付額は約187億円と昨年度に続く高い水準となりましたが、この生産者への価格差補給交付金等の交付により、生産者の経営安定と野菜生産の安定が確保され、ひいては、消費者への指定野菜の安定供給が確保されています。機構では、今後とも、速やかな価格差補給交付金等の交付など本事業の的確な運営に努力してまいります。

図3 令和2年度価格差補給交付金等交付額と交付割合（道府県別）

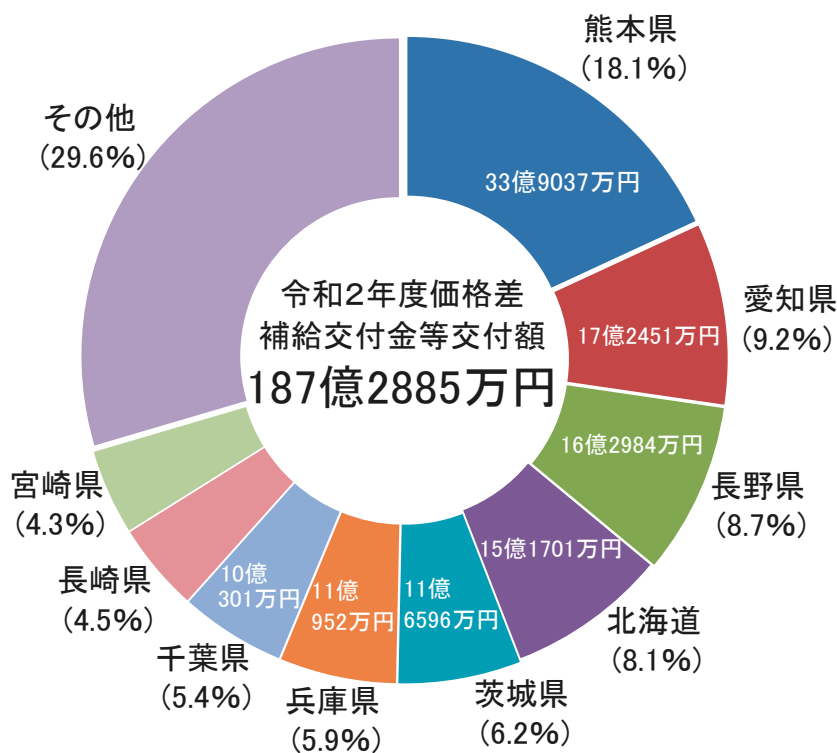


表2 令和2年度価格差補給交付金等交付額と交付率（道府県別）

道府県	2年度			元年度		
	資金造成額 (A)	交付金等交付額 (B)	交付率 (B)/(A)	資金造成額 (C)	交付金等交付額 (D)	交付率 (D)/(C)
	千円	千円	%	千円	千円	%
北海道	11,848,988	1,517,009	12.8	11,843,625	3,533,295	29.8
青森県	2,012,578	3,390	0.2	2,074,465	214,885	10.4
岩手県	2,059,393	38,896	1.9	2,202,478	97,347	4.4
宮城県	254,371	461	0.2	270,947	2,025	0.7
秋田県	407,961	34	0.0	446,610	26,910	6.0
山形県	471,142	4,561	1.0	491,390	25,732	5.2
福島県	2,336,660	3,996	0.2	2,449,168	126,633	5.2
茨城県	4,236,299	1,165,957	27.5	4,511,697	648,288	14.4
栃木県	1,434,007	206,258	14.4	1,517,053	155,661	10.3
群馬県	9,039,648	737,588	8.2	9,059,799	829,208	9.2
埼玉県	729,992	32,416	4.4	792,067	29,971	3.8
千葉県	8,150,725	1,003,009	12.3	8,522,859	947,889	11.1
神奈川県	2,847,458	408,749	14.4	2,916,539	431,424	14.8
新潟県	376,299	7,370	2.0	391,217	12,311	3.1
富山県	276,896	1,797	0.6	298,891	26,603	8.9
石川県	173,609	6,929	4.0	190,257	4,045	2.1
福井県	91,004	1,356	1.5	98,360	238	0.2
山梨県	316,059	4,260	1.3	335,115	15,072	4.5
長野県	7,036,909	1,629,842	23.2	7,015,530	1,709,880	24.4
岐阜県	1,696,170	54,424	3.2	1,805,504	252,254	14.0
静岡県	1,785,708	720,766	40.4	1,788,165	524,261	29.3
愛知県	5,719,611	1,724,507	30.2	4,847,933	1,222,132	25.2
三重県	333,893	95,147	28.5	281,507	58,226	20.7
滋賀県	32,383	6,315	19.5	31,814	3,323	10.4
京都府	43,602	932	2.1	43,602	2,143	4.9
大阪府	555,956	41,860	7.5	572,789	60,582	10.6
兵庫県	4,833,703	1,109,522	23.0	5,101,780	1,164,247	22.8
奈良県	202,237	11,892	5.9	223,456	16,422	7.3
和歌山県	604,073	185,019	30.6	668,898	148,501	22.2
鳥取県	824,886	14,078	1.7	890,108	66,134	7.4
島根県	29,712	2,632	8.9	35,922	11,636	32.4
岡山県	649,041	37,175	5.7	678,868	54,677	8.1
広島県	365,134	35,343	9.7	431,384	47,500	11.0
山口県	234,804	13,297	5.7	239,065	31,377	13.1
徳島県	3,620,982	436,756	12.1	3,712,134	1,186,393	32.0
香川県	2,931,221	583,597	19.9	2,891,576	548,548	19.0
愛媛県	753,685	55,092	7.3	793,156	69,264	8.7
高知県	4,222,059	342,306	8.1	4,248,229	163,597	3.9
福岡県	2,241,619	639,130	28.5	2,239,262	413,357	18.5
佐賀県	2,253,629	591,763	26.3	2,384,469	522,440	21.9
長崎県	4,112,726	840,443	20.4	4,054,552	1,082,070	26.7
熊本県	12,528,526	3,390,366	27.1	12,405,099	2,054,717	16.6
大分県	607,880	32,167	5.3	592,555	48,381	8.2
宮崎県	5,589,690	812,643	14.5	5,851,862	439,973	7.5
鹿児島県	1,887,175	126,914	6.7	1,927,254	238,490	12.4
沖縄県	183,024	50,882	27.8	151,482	33,847	22.3
総計	112,943,127	18,728,846	16.6	114,320,492	19,301,909	16.9